

YMCA健康福祉専門学校

健康福祉ニュース

What's New!

・ 専門学校体育大会が
行われました

・ 広島国際青少年
セミナー参加報告

「思いに寄り添う」

～新潟県柏崎市災害ボランティアセンター派遣報告～

新潟県柏崎市社会福祉協議会会館内に設置された災害ボランティアセンターには、早朝からボランティア派遣依頼の電話がひっきりなしに鳴っています。一つご紹介しましょう。

「こちら避難所に指定されているコミュニティーセンターに柏崎市から派遣されている職員の ですが、避難所近くにお住まいのひとり暮らしのお年寄りの家に食事を届けてもらえませんか？避難所に来る事ができないので水も食料もないと近所の民生委員の方が心配して連絡してきたのですが…」と職員。

「避難所には、食事を届けることができるボランティアはいませんか？」

「ボランティアは沢山いますが、避難所にいる人達に食事を配るので手一杯です。そちらのボラセンから派遣してもらえませんか。」

「わかりました。その方のお名前と住所と連絡先を教えてください。ニーズをあげてボランティアとマッチングして派遣するようにします。こちらから派遣ボランティアが出る前に確認の電話を入れますが、その方に直接でよろしいですか？」とボランティア要請受付担当のニーズ担当ボランティア。

「よろしく願いいたします。」

ニーズ担当のボランティアたちは、ボランティア派遣要望書に必要事項を記入して、住所から地図で場所を確認、コピーして、要望書に添付しマッチング班へ渡します。マッチング班では、内容を確認してから集まっているボランティアに呼びかけます。

「コミュニティーセンターから高齢者のご自宅に水(2リットル)2本とおにぎり6個を届けてくださる方いませんか？」「行きます」との声が上がる。

「ありがとうございます。では事前確認の電話入れますね。よろしいですか？」「はい！」

「もしも、さんのお宅ですか？こちらは柏崎災害ボランティアセンターのボランティアの です。 避難所の市職員の さんから連絡があり、今から水とおにぎりをボランティアの方に届けてもらいます。よろしいですか？」「よろしく願いいたします。」

「今連絡がつかしましたので さん、よろしく願いいたします。地図はこれです。少し遠いので車両2台に車を出してもらいます。ボランティアセンター内の資材班で必要な食材等をもらって行ってください。気をつけて行ってくださいね。」

「行ってきます。」

ボランティアを送り出した後は、無事に事故なく戻ってほしいと祈るばかりです。帰ってきたボランティアから「本当に喜ばれました。あんなに感謝されたことはありませんでしたよ」と届けたボランティア自身も心から嬉しそうに輝いていました。こんな光景に災害ボランティアセンター本部で数多く出会いました。

ニーズの電話にも依頼ばかりでなく「お礼」の電話も多くありました。「午前中、そちらから若いボランティアの人たちが8人も来てくれて、落ちた屋根瓦を片づけてくれました。みなさん一生懸命に雨の中を2時間も懸命に片づけてくれて…ありがとうございました。本当にありがとうございました。」その電話は、すぐにボランティアの方々にも伝えられ、自然と拍手が沸き上がりました。被災者の方々の思いに寄り添うボランティアたちの姿に感動しました。

YMCA健康福祉専門学校
校長 小林 一郎





ハーネスをつけているときは犬は仕事です。触れるのは使用者だけです

盲導犬と視覚障がい

7月20日の介護福祉科2年生の「形態別介護技術・視覚」の授業では、盲導犬とともに生活している金子さんをお招きし、盲導犬について、視覚障がい者の生活についてなどお話をうかがう機会を持ちました。夏らしいひまわり柄の服を着た盲導犬は、教室の中で40人もの人が見つめる中でもほえたりすることなく、じっと座って指示を待っています。実際に現在活躍している盲導犬は約950頭、しかし今すぐにも盲導犬を希望している方は

約4700人もいらっしゃるそうです。金子さんは、盲導犬との生活で、便利になったことはたくさんある。それでもやはり、困ることもまだあります。盲導犬を連れてくる人や白杖を持っている人を見かけたら、勇気を出して声をかけてください、と話してくださいました。



夏は実習の季節

8月と9月の2ヶ月は、YMCA健康福祉専門学校は夏休み期間です。この夏休み期間、ほとんどの学生が資格取得に必要な「現場実習」を行っています。介護実習は3～4週間、福祉施設実習や保育園実習は2週間を実際に利用者さんたちの生活する施設で学ぶことになります。資格取得に欠かせない実習ですが、そこには「授業にはない学び」があります。実際に福祉施設を利用する人とのふれあいやそこで働く方々との関わり、それら

は緊張しますが、さまざまな人の想いをくみ取るかけがえのない体験です。YMCA健康福祉専門学校では数多くの実習や演習を通して、社会で役立つ実践力を養います。



幼児体育指導
ホサナの子どもたちと一緒に体を動かしました。

夏のイベントがおこなわれました

YMCA健康福祉専門学校では毎年、8月の夏休みを利用して、「夏のイベント」を行っています。今年も各種福祉施設の見学や、保育・介護・スポーツ分野の体験授業、障がい児と一緒にデイキャンプに行くプログラムなどを実施し、たくさん的高校生が参加してくれました。スポーツ分野の体験授業、「幼児体育指導」には、YMCAあつぎ保育園ホサナの子どもたちが実際に授業に参加してくれました。練習では恥ずかしがっていた人が多かったのですが、子どもたちと一緒に大きな声を出していくうちに、みな、いきいきと体操を楽しんでいました。

介護食クッキングでは、小松菜入り蒸しパンとゴマプリンを作りました。食のすすまない高齢者の方に栄養価の高い野菜やゴマなどをおいしく食べていただく工夫を教えていただき、「高齢者施設にいて利用者さんとお話したときに、『食事が一番楽しい』と言っていた意味がわかった気がします」という感想が聞かれました。参加したみなさんの進路選択のお役に立てていただければいいと思います。



「平和」を考える夏 国際青少年平和セミナー

今年で第30回を迎える青少年平和セミナーが8月4日(金)～6日(日)、広島にて行われました。

このセミナーは毎年、8月6日の平和祈念式典にあわせ、被爆都市広島に世界各国・地域の若者が集まり、平和について共に考えます。被爆者の体験談、核の話、平和や国際協力などの分野で活躍されている講師の方々による講義やワークショップ、グループディスカッションなどを実施します。今年にはYMCA健康福祉専門学校から介護福祉科1年の伊藤菜智さんと佐藤利恵子さんが参加しました。



広島で行われた国際青少年平和セミナーでは、国も年齢も異なるたくさんの方たちと、「平和」をテーマに交流を深めました。言葉が足りず上手く伝え切れなかったり、言語が違うメンバーへ知っている単語を積み重ねたり、ボディランゲージを繰り返したり、生まれ育った環境の違う人たちとともに考え、伝え、受け入れることは決して容易なことではありませんでした。けれど、一生懸命伝えようとする伝わります。そして、笑顔で真摯に向き合えば、その想いを共有できるのです。他人と向き合うことは自分と向き合うことだったのです。私たちひとり一人は小さいですが、その小さな想いから生み出せる幸せがある、平和な社会を創ることができる、そう感じました。

「私たちは微力ではあるが無力ではない」

(介護福祉科1年 伊藤菜智さんより)



「平和への誓い」 2007年平和祈念式典より

私たちは、62年前の8月6日、ヒロシマで起きたことを忘れません。

あの日、街は真っ赤な火の海となり、何もかもが焼かれてなくなりました。川は死者で埋まり、生き残った人たちは涙も出ないほど、心と体を傷つけられました。目も鼻も口もわからないほどの大やけど。手足に突き刺さった無数のガラス。あの日、ヒロシマは、怒りや悲しみのとても恐ろしい街でした。

これが原子爆弾です。これが戦争です。これが本当にあったことなのです。

しかし、原子爆弾によっても失われなかったものがあります。

それは生きる希望です。

祖父母たちは、廃墟の中、心と体がぼろぼろになっても、どんなに苦しくつらい時でも、生きる希望を持ち続けました。多くの犠牲の上によみがえった広島をもっと輝かせたいという思いで、原子爆弾によって焼け野原になった街をつくり直してきました。そして、今、広島は、自然も豊かたくさんの人々が行き交う、笑顔あふれるとても平和な街となりました。

今、テレビや新聞は、絶えることない戦争が、世界中で多くの命を奪い、今日一日生きていけるか、一日一食食べられるか、そんな状況の子どもたちをつくり出していることを伝えていきます。

そして、私たちの身近なところでは、いじめや争いが多くの人の心や体を壊しています。

嫌なことをされたら相手に仕返しをしたい、そんな気持ちは誰にでもあります。でも、自分の受けた苦しみや悲しみを他人にまたぶつけても、何も生まれません。同じことがいつまでも続くだけです。

平和な世界をつくるためには、「憎しみ」や「悲しみ」の連鎖を、自分のところで断ち切る強さと優しさが必要です。そして、文化や歴史の違いを超えて、お互いを認め合い、相手の気持ちや考えを「知ること」が大切です。

途切れそうな命を必死でつないできた祖父母たちがいたから、今の私たちがいます。原子爆弾や戦争の恐ろしい事実や悲しい体験を、一人でも多くの人たちに「伝えること」は、私たちの使命です。

私たちは、あの日苦しんでいた人々を助けることはできませんが、未来の人々を助けることはできるのです。

私たちは、ヒロシマを「遠い昔の話」にはしません。

私たちは、「戦争をやめよう、核兵器を捨てよう」と訴え続けていきます。

そして、世界中の人々の心を「平和の灯火」でつなぐことを誓います。

平成19年(2007年)8月6日

こども代表 広島市立五日市観音西小学校6年 森 展哉
広島市立東浄小学校6年 山崎 菜緒

専門学校体育大会

8月14日から24日までの間、今年もYMCA健康福祉専門学校は、神奈川県専門学校体育大会へ参加をしました。例年以上に暑い日が続くなか、実習の合間を縫って熱戦を繰り広げた学生たち。結果もさることながら、スポーツに必死に取り組む姿は学校生活とは違う一面を見せてくれました。



バスケットボール 男女



野球



卓球
個人 準優勝



バレーボール 男女



サッカー
4位入賞



ボウリング
団体 準優勝
個人 3位入賞



YMCA健康福祉専門学校

福祉スポーツ科
健康福祉科
介護福祉科

〒243-0018

厚木市中町4-16-19

電話 046-223-1441

FAX 046-223-2101

Email: ymkenko@yokohama-ymca.or.jp

HP: <http://www.yokohamaymca.ac.jp/health>



小田急線本厚木駅から徒歩5分
本厚木駅周辺にはミロードをはじめたくさんのお店もあり便利です。有名ラーメン店もありますよ！

ホームページもご覧ください
<http://www.yokohamaymca.ac.jp/health/>

Realize your dream!

～地域福祉をささえるのはあなたです！～

YMCAではさまざまな活動を通して次のことを学びます。

- 「自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること」
- 「家族、地域のひとりひとりとして責任があること」
- 「世界と地球を見つめ、考え、行動すること」
- 「ボランティア精神とリーダーシップを身につけること」
- 「すこやかな心と体を育むこと」

そしてこれらを実現するために、次のことを大切にします。

- 「Caring(思いやり)」「Honesty(誠実さ)」
- 「Responsibility(責任感)」「Respect(尊敬心)」

YMCA健康福祉専門学校では、カリキュラムや学校行事を通じて4つの大切な価値を意識する機会を取り入れています。将来、福祉・保育・スポーツの現場で活躍する学生のみなさんに、他者への思いやりの心を持ち、相手を敬い、自分の行動に責任を持ち、誠実に取り組んでいく専門職になってほしいと願っています。